

宮崎市文化財調査報告書 第118集

にし だ だい さん い せき
西田第3遺跡

宅地分譲に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書



2017

宮崎市教育委員会

宮崎市文化財調査報告書 第118集

にし だ だい さん い せき
西田第3遺跡

宅地分譲に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2017

宮崎市教育委員会

序 文

宮崎市は、太陽と緑豊かな宮崎県の県都として、日々発展を続けています。市内では様々な開発事業が行われていますが、それに伴ってやむなく消失する埋蔵文化財もあります。その場合は発掘調査が行われますが、その過程で宮崎市の歴史を解明する、新たな成果も得られています。

今回調査された西田第3遺跡は宮崎市南部、日向灘を望む丘陵上にあります。近年住宅の建築が盛んな地域であり、今回も、宅地分譲に伴い発掘調査が行われました。その結果、弥生時代、古墳時代の遺物や近世にあたる陶磁器が出土し、宮崎平野南部における新たな調査事例となりました。現代に生きる私たちは、調査成果を未来へと残してゆかねばなりません。

西田第3遺跡の発掘調査は冬に実施されました。今回こうして報告書を刊行に至ることができたのも、寒風の吹き荒れる中、発掘作業に携った作業員の方々や、調査にご理解いただいた地権者をはじめ周辺住民の方々のご協力によるものです。末尾ではございますが、この場を借りまして、心よりお礼申し上げます。

平成29年3月

宮崎市教育委員会
教育長 二見 俊一

例 言

1. 本書は、本郷南方宅地分譲に伴う、宮崎県宮崎市本郷南方西田に所在する西田第3遺跡の発掘調査報告書である。
2. 本事業は、民間の開発業者より依頼を受け、宮崎市教育委員会文化財課が実施した。発掘調査、整理作業は以下の手続きを経て実施した。

(平成27年度)

進達文書 平成27年10月30日 (宮教第文663号1)
伝達文書 平成21年11月2日 (0850-7-163)
発掘調査 平成27年11月30日～平成27年12月16日
着手報告 平成27年12月2日 (宮教文第620号8)
発見通知 平成27年12月18日 (宮教文第720号3)
保管証 平成27年12月24日 (宮教文第720号6)
完了報告 平成27年12月24日 (宮教文第720号4)

(平成28年度)

整理作業 平成28年5月19日～平成29年3月30日

3. 調査組織

調査主体 宮崎市教育委員会 文化財課

(平成27年度)

(平成28年度)

発掘調査

整理作業

文化財課	課長	日高 貞幸	文化財課	課長	日高 貞幸
整理総括	埋蔵文化財係長	井田 篤	整理総括	埋蔵文化財係長	井田 篤
調整担当	主任技師	河野 裕次	調整担当	主任技師	河野 裕次
調査事務	主任主事	谷口 広清	整理事務	主任主事	武富 知子
調査・整理担当	主査	金丸 武司	整理担当	主査	金丸 武司
	嘱託員	大嶋 昭海		嘱託員	小野 貞子

4. 現地における測量はトータル・ステーションを用いて行い、個別の遺構実測図は1/10で作成した。また個別の写真は35mm及びプロニー版のモノクロ・リバーサルフィルムで撮影した。
5. 本書に掲載した遺物の実測・トレースは金丸・小野及び室内整理作業員が行った。
6. 本書で使用する土色の表記は『新版 標準土色帳』に依拠した。
7. 本書で使用する北は、全て真北である。
8. 出土遺物及び掲載図面・写真、記録等は宮崎市教育委員会が保管している。
9. 本書の執筆・編集は金丸が行った。

目次

本文目次

第Ⅰ章 はじめに	1
第1節 遺跡の立地	1
第2節 遺跡の歴史的環境	1
第3節 調査に至る経緯	1
第Ⅱ章 調査の結果	3
第1節 調査の概要	3
第2節 層序	3
第3項 検出遺構	3
第4項 出土遺物	8
第Ⅲ章 まとめ	9

挿図目次

第1図 西田第3遺跡位置図	2
第2図 西田第3遺跡周辺図	2
第3図 調査区土層堆積模式図	3
第4図 西田第3遺跡遺構分布図	4
第5図 西田第3遺跡検出遺構実測図(1)	4
第6図 西田第3遺跡検出遺構実測図(2)	5
第7図 西田第3遺跡出土土器実測図	6
第8図 西田第3遺跡出土遺物実測図	7

表目次

第1表 出土土器・土製品観察表	10
第2表 出土石器観察表	10

写真図版

図版1 遺構検出状況(北西から)	11	図版12 溝状遺構検出状況(西から)	12
図版2 柱穴半裁状況(東から)	11	図版13 溝状遺構完掘状況(西から)	12
図版3 掘立柱建物1半裁状況(西から)	11	図版14 溝状遺構検出状況(西から)	12
図版4 土坑1遺物出土状況(南から)	11	図版15 西田第3遺跡出土弥生土器写真	13
図版5 土坑1完掘状況(北から)	11	図版16 西田第3遺跡出土古墳時代土器写真1	13
図版6 溝状遺構完掘状況(南西から)	11	図版17 西田第3遺跡出土土器写真2	13
図版7 溝状遺構土層断面(東から)	11	図版18 西田第3遺跡出土近世陶磁器写真	13
図版8 調査区北西部遺構検出状況(南東から)	12		

第1章 はじめに

第1節 遺跡の立地

宮崎平野の東部は砂丘（浜堤）が日向灘に沿って列を成す。石崎川以南～大淀川以北の宮崎平野北部では、4列の並びを見ることができるが、大淀川以南～清武川以北はそれほど明瞭でなく、日向灘沿岸の砂丘列の西側は、宮崎層群による丘陵に至るまで約1～1.5kmもの間平野が続く。本郷南方の住宅地は丘陵上にあたるが、丘陵の東部は、丘陵上に砂が分厚く堆積し、南北方向に広がる帯状の砂丘が形成される。本書で報告する西田第3遺跡は、この砂丘上に立地する。

第2節 遺跡の歴史的環境

西田第3遺跡の立地する砂丘上には、西田第1遺跡、榎田遺跡、西田第2遺跡、東宮遺跡、平田遺跡が南北に連なる。その東には、砂丘とは呼べないまでも南北に伸びる微高地があり、原遺跡、南方遺跡が立地する。更に東の沿岸部の砂丘上には、松崎第1遺跡、松崎第3遺跡が立地する。これらの遺跡の多くは、弥生時代から古墳時代、古代を中心とする。東宮遺跡は宅地造成に伴い発掘調査が行われ、弥生時代の溝状遺構、中世の東播系須恵器や和鏡、近世の陶磁器や土師質人形などが出土した。

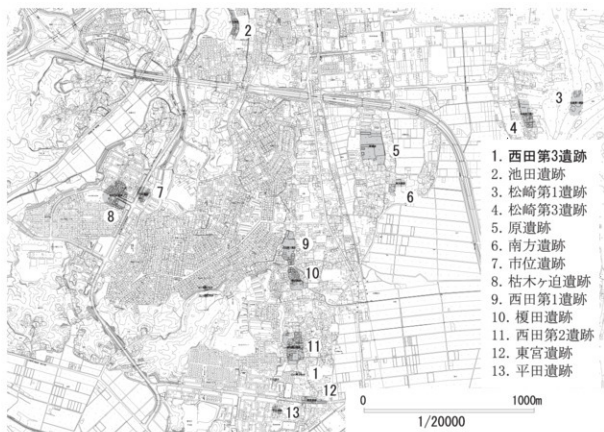
砂丘北側の微高地には、津和田第1遺跡、津和田第2遺跡と、弥生時代を中心とする遺跡が立地する。津和田第2遺跡は、平成27年度に発掘調査が実施され、弥生時代の周溝状遺跡などが確認されている。砂丘を含む丘陵の西側には、宅地造成に伴って発掘調査が行われた。その結果、市位遺跡からは弥生時代や古代の土器が大量に出土し、枯木ヶ追遺跡からは石塔群が確認された。

清武川を挟んだ南岸の丘陵は、宮崎大学の建設に伴い、旧石器時代から近世に至る多くの遺跡が発掘調査され、宮崎県における考古学研究の基礎となった学園都市遺跡群が立地する。この丘陵の麓にも、木花古墳、熊野原第1遺跡、木崎遺跡が分布する。

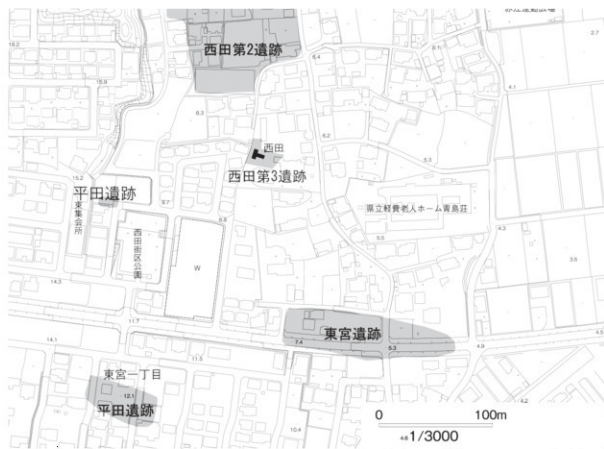
このように、西田第3遺跡周辺は、宮崎平野南部でも埋蔵文化財の豊富な地域である。

第3節 調査に至る経緯

平成27年8月、民間業者より埋蔵文化財の照会があった。事業地は周知の埋蔵文化財包蔵地「西田第2遺跡」の近接地にあたることから、試掘調査の協力を依頼。平成27年10月26日に試掘調査を実施、事業地の西側から弥生時代～古代と思われる溝状遺構、及び遺物包含層が確認されたほか、弥生土器、土師器が出土した。この結果を受けて民間業者と文化財部局は協議し、宅地部分は必要な区画に盛土を行うため埋蔵文化財への影響はないが、宅地内の道路は永久構造物と判断されることから発掘調査が必要と判断。作業の進捗に合わせて本調査を実施することとなった。



第1図 西田第3遺跡位置図



第2図 西田第3遺跡周辺図

第Ⅱ章 調査の結果

第1項 調査の概要

調査は、バックホウにて表土を剥いだ後、人力にて掘削を行った。

東側は現代の攪乱が激しく、遺構は確認できなかった。また、西端部の中央において深さ1m、幅10mに及ぶ落込みを確認した。遺物も少量含まれたことから、遺構の可能性も含めて人力で掘削したところ、現代の大規模な攪乱であることが判明した。この攪乱部分を除去したところ、その下位から溝状遺構を確認した。攪乱の南側に検出作業を行ったところ、柱穴列を確認した。また、北川には攪乱を受けながら遺物包含層を確認し、その下位より溝を1条検出した。

第2項 層序

調査区内の土層堆積は、Ⅰ層：表土（砂質土＋瓦礫層）、Ⅱ層：暗褐色砂質土、Ⅲ層：灰褐色砂質土である。堆積は凡そ第1図のとおりである。調査区の元の地形は南西から北東にかけて傾斜し、砂丘内に谷が入り込んだ「追」状の地形を呈していた。

遺物包含層はⅡ層である。本来はⅢ層の上面に広く堆積していたと考えられるが、現代の造成により北西部以外は削平され、僅かに調査区のみ残ったと考えられる。

第3項 検出遺構

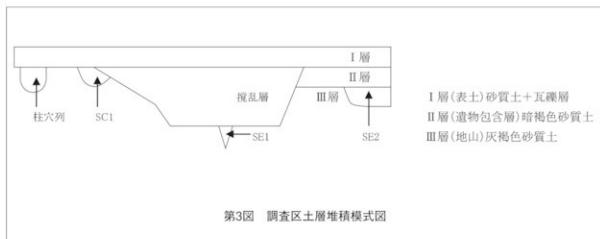
調査では掘立柱建物、土坑、溝状遺構を検出した。検出面は全てⅢ層上面である。出土遺物から、遺構はほぼ古墳時代もしくは古代に構築されたと考えられるが、遺構別に説明する。

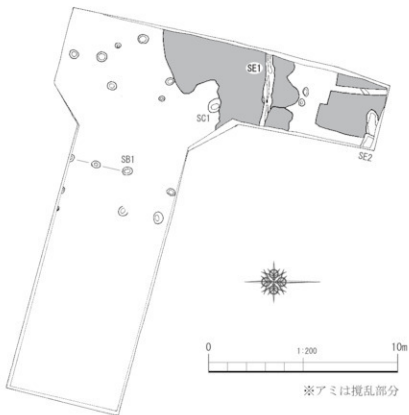
第1目 溝状遺構

調査区西部より2条検出された。

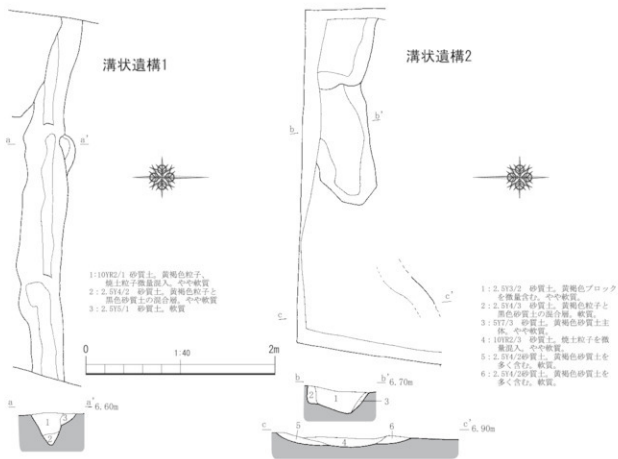
溝状遺構1

調査区西部の攪乱部分を除去した下位より検出された、東西方向に伸びる遺構である。そのため、本来の構築面は、検出面より少なくとも50cm高かったと考えられる。残存部分は長さ約8m、深さ約40cm。断面形はV字状を呈し、埋土は黒褐色のシルト質土を主体とする。





第4図 西田第3遺跡遺構分布図 (S=1/200)



第5図 西田第3遺跡検出遺構実測図 (1) (S=1/40)

掘立柱建物1

柱穴列

P1

- 1: 2.514/1 砂質土、白色砂質土の
粒子により面紋を形成、やや軟質。
- 2: 2.515/2 砂質土、暗黄褐色砂質土に
灰褐色の粒子種か混入、軟質。

P2

- 1: 2.514/1 砂質土、白色砂質土の
粒子により面紋を形成、やや軟質。
- 2: 2.515/2 砂質土、暗黄褐色砂質土に
灰褐色の粒子種か混入、軟質。
- 3: 2.515/2 砂質土、暗黄褐色砂質土に
灰褐色の砂質土を微量混入、軟質。

P3

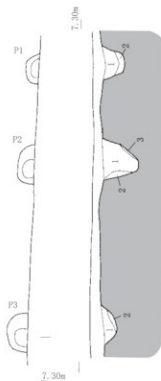
- 1: 2.514/1 砂質土、白色砂質土の
粒子により面紋を形成、やや軟質。
- 2: 2.515/1 砂質土、暗黄褐色砂質土に
灰褐色の粒子と黒色粒子が混入、
やや軟質。

P4

- 1: 2.514/1 砂質土、黒色砂質土に
灰褐色の砂質土を混入、やや硬質。
- 2: 2.515/2 砂質土、暗黄褐色砂質土に
灰褐色の粒子種か混入、軟質。
- 3: 2.515/1 砂質土、暗黄褐色砂質土に
灰褐色の粒子と黒色粒子が混入、
やや軟質。

P5

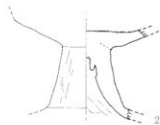
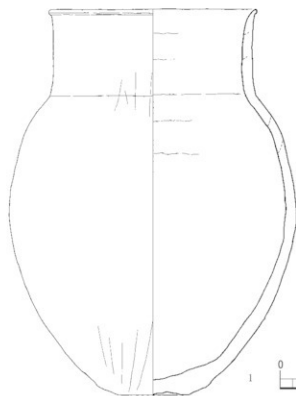
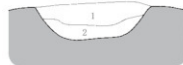
- 1: 10194/1 砂質土、黒色砂質土に
灰褐色の砂質土を混入、やや硬質。
- 2: 10193/2 砂質土、黒色砂質土に
灰褐色の砂質土を微量混入、やや軟質。
- 3: 2.515/2 砂質土、暗黄褐色砂質土に
灰褐色の砂質土を微量混入、軟質。



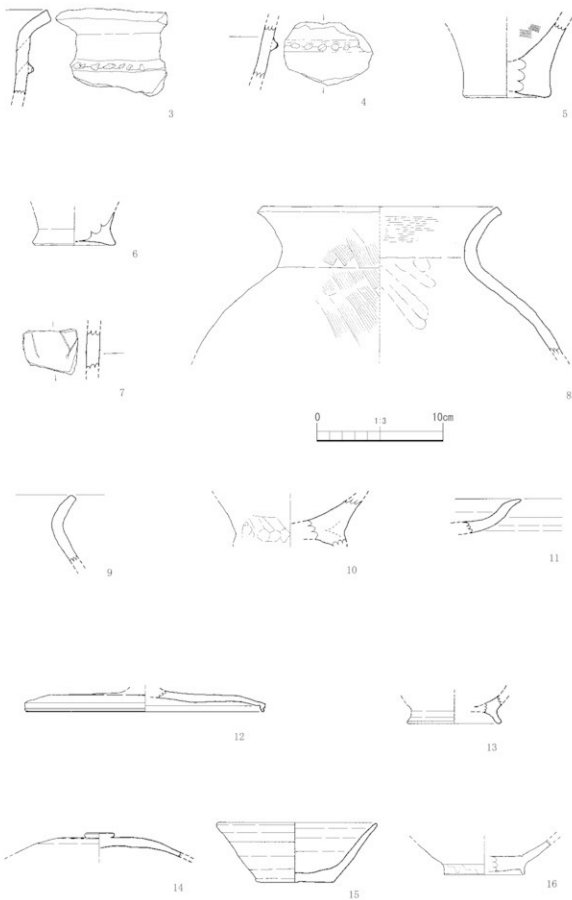
土坑1



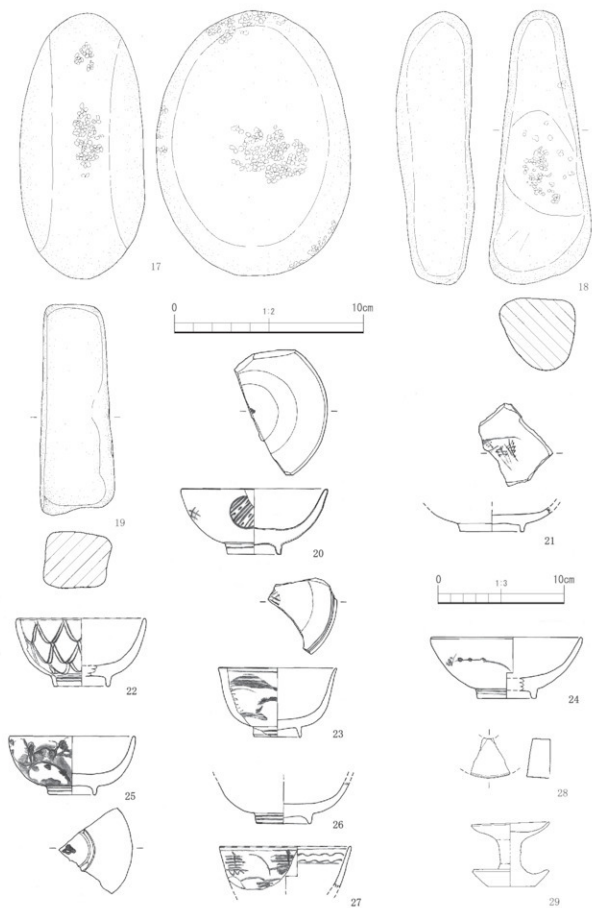
- 1: 10192/3 砂質土、
黒色砂質土に灰褐色の
粒子を混入、遺物多く
含む。
- 2: 10193/4 砂質土、
黒色砂質土に灰褐色の
粒子を多く混入、炭化
物微量。



第6図 西田第3遺跡検出遺構実測図(2)



第7図 西田第3遺跡出土土器実測図 (S=1/3)



第8図 西田第3遺跡出土遺物実測図 (S=17~19:1/2、それ以外:1/3)

底面は時折段を形成する。埋土中の遺物は土師器の小片のみであった。

溝状遺構2

調査区の北西端部より検出された、東西方向に伸びる溝である。西側が攪乱を受けているため正確ではないが、東側は東西方向に伸びるが、途中で向きを変え、西側は南西方向に伸びる。残存部分の長さは8m、深さは東側は30cm、西側は10cmに満たない。断面形は逆台形状を呈し、時折段を形成する。埋土中の遺物は土師器の小片のみであった。

第2目 掘立柱建物

調査区南部より1棟検出された。

掘立柱建物1

調査区の南部より、東西方向に3基、南北方向に3基並ぶ形で検出した。柱穴は径30cm以下、深さ30cm前後であるが、上層が削平されているため、本来は深さ60cm前後であったと考えられる。柱穴の間隔は、南北方向はほぼ1mであるが、東西方向はP2-3は1mであるものの、P1-2の間は50cmである。これらの柱穴が掘立柱建物である可能性もある。遺構の北側、東側は攪乱が著しいため、検出できなかった。埋土中の出土遺物は土師器の小片のみであった。

第3目 土坑

1基検出された。

土坑1

西側中央部より検出された。北側を消失した状態であった。元は60cm×40cmであり、楕円形を呈していたと考えられる。深さは約30cm、断面はボウル状を呈する。埋土上層から、二個体の土師器が出土した。

1・2は土坑1から出土した土師器である。1は甕と考えられるが、口縁部が窄まり頸部が伸びるなど、一般的な甕とは異なる特徴を持つ。2は高坏である。

第4項 出土遺物

3～5は、遺物包含層（Ⅱ層）からの出土遺物である。

3～5は弥生土器の甕である。3は口縁が外反し、胴部上位に断面三角形の突帯を横位に貼り付け、突帯上に刻み目を等間隔で施文する。4は口縁部がないものの、3で見られるような突帯が行われる。5は底部である。底面は上げ底気味となる。

6・7も弥生土器の可能性が高い遺物である。6は5と同様の上げ底気味の底部であるが、5とは異なり底面になって幅が広がる。7土器片であり、器面には線刻が描かれる。ただし小片であるため何を描いたのか不明である。

8～11は古墳時代から古代の土師器である。8は口縁が広がり、口縁部から胴部の境界で一旦窄まるものの、胴部でまた膨らむ器形を呈する。胴部外面には櫛状の工具による痕跡が顕著に残される。9は壺、10は甕もしくは壺、11は坏と考えられる。

12～15は古代の遺物である。12・14は須恵器の坏蓋である。13・15は土師器の壺である。13は底部から湾曲しながら急角度に立ち上がるが、14は外反しながら直線状に口縁部に達する。15の外面には、製作時の稜が幾重にもわたって残される。

16は中世の遺物である。高台の幅が狭い一方で底面は分厚い。内面には底面と胴部の境界に稜が残される。このような特徴から、中世に大陸から輸入された白磁と考えられる。

17～19は石器である。17は、円礫を利用し、側縁と端部の縁辺と平坦面に敲打痕が残る。18は片側が幅広になる棒状の礫を利用し、平坦面に敲打痕が残る。19は方形を呈する棒状の礫を利用し、表面に捺痕が残る。弥生時代から古代に伴うと見られる。

20～29は近世の遺物である。いずれも攪乱層から出土した。20～23は磁器の碗である。21の内面には赤絵が施される。27の器面には「寿」の字が崩した書体で描かれることから、祭礼用の器と考えられる。28は磁製の戸車である。29は仏飯具と考えられる。底面には糸切りによる同心円状の痕跡が認められる。

第三章 まとめ

出土した弥生土器はいずれも中期に属する。弥生時代の資料は、西田第3遺跡の南に近接する東宮遺跡では後期から終末期の土器が出土するほか、丘陵の西端に立地する市位遺跡では、中期から後期にあたる遺物が多量に出土する。近年発掘調査された津和田第2遺跡でも当該期の遺物が出土する。

古墳時代から古代について、調査区からは、土坑や掘立柱建物、溝状遺構が検出された。現代の造成が著しいため検討は困難であるが、当該期、調査地は居住地などに利用されたと考えられる。近接する東宮遺跡からも遺構・遺物共に多量に出土することから、本遺跡は東宮遺跡から続く集落の一部と考えられる。周辺では先に述べた市位遺跡からも多量の遺物・遺構が確認されている。丘陵の東端と西端に同時期の集落が存在した点は興味深い。

近世の遺構は確認されず、陶磁器が僅かに攪乱層から確認された程度である。東宮遺跡の発掘調査中、調査担当者は、調査区の北隣にかつて庄屋宅が存在したという言い伝えを地元の方より伺っている。今回の調査で屋敷跡が検出できたわけではないが、西田第3遺跡が東宮遺跡の北に立地することや、出土遺物の中に、祭礼用や赤絵の染付など、庶民では入手困難な遺物が含まれていることを考えると、調査地が庄屋宅あるいはその一部であった可能性が考えられる。

(参考文献)

宮崎県埋蔵文化財センター編 1998「市位遺跡」宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書

宮崎県埋蔵文化財センター第10集

宮崎市教育委員会編 1999「東宮遺跡」宮崎市文化財調査報告書 宮崎市教育委員会 第39集

第1表 出土土器・土製品観察表

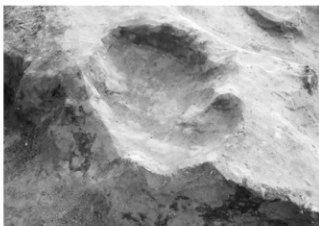
掲載 頁	図 番号	掲載 番号	出土 層位	種別 器種	法量():復元			色 調		徳成	調整		胎土(上:mm,下:量)					備考		
					口径	底径	器高	外面	内面		外面	内面	A	B	C	D	E			
5	6	1		土師器	(16.4)	(5.0)	30.5	12.0-14	赤褐色	良好	横ナゲ、縦ナゲ、斜方向のナゲ	1					SCI出土			
		2		土師器 高杯				赤褐色	赤褐色	良好	ナゲ、横ナゲ、縦ナゲ、斜方向のナゲ	1					微細少	SCI出土		
6	7	3	II	弥生土器 壺	(6.5)			横ナゲ	横ナゲ	良好	横ナゲ、縦ナゲ、斜方向のナゲ	2								
		4	II	弥生土器 壺				縦	12.0-14	赤褐色	良好	斜方向のナゲ、縦ナゲ、斜方向のナゲ	1	1						
		5	II	弥生・古墳 壺	12.0-14	赤褐色	良好	ナゲ	斜方向のナゲ、横方向のナゲ	1										
		6	II	弥生・古墳 壺	12.0-14	赤褐色	良好	ナゲ	横ナゲ	1										
		7	II	古墳・古代	縦	12.0-14	赤褐色	良好	横ナゲ	1										
		8	II	古墳・古代	18.5	12.0-14	赤褐色	良好	斜方向のナゲ、縦ナゲ、斜方向のナゲ	1			1							
		9	II	古墳・古代	12.0-14	12.0-14	赤褐色	良好	ナゲ、横ナゲ、斜方向のナゲ	2										
		10	II	古墳・古代	縦	縦	赤褐色	良好	縦ナゲ、横ナゲ	2										
		11	II	古墳・古代 杯	12.0-14	12.0-14	赤褐色	良好	横ナゲ	2										
		12	II	古墳・古代 外蓋	18.4	縦	縦	良好	横ナゲ	2										
		13	II	古墳・古代 杯	7.2	12.0-14	12.0-14	赤褐色	良好	横ナゲ	2									
		14	II	古墳・古代 外蓋	縦	縦	赤褐色	良好	横ナゲ	2										
		15	II	古代 杯	12.0-14	12.0-14	赤褐色	良好	横ナゲ	2										
		16		表探	白磁 壺		6.3		灰黄	灰	聖域	横ナゲ、縦ナゲ	2							
		7	8	20	表探	染付 壺	11.6	4.2	5.2	赤褐色	赤褐色	聖域	縦ナゲ	2						
				21	表探	染付 壺	(5.0)			赤褐色	赤褐色	聖域	縦ナゲ	2						赤絵
22	表探			染付 壺	(10.1)	(4.2)	5.4	赤褐色	灰白	聖域	縦ナゲ	2								
23	表探			染付 壺	5.4	3.8	5.5	赤褐色	赤褐色	聖域	縦ナゲ	2								
24	表探			染付 壺	(11.7)	(4.5)	4.8	灰白	灰白	聖域	縦ナゲ	2								
25	表探			染付 壺	10.0	3.9	4.6	灰白	灰白	聖域	縦ナゲ	2								
26	表探			染付 壺	4.2			灰白	灰白	聖域	縦ナゲ	2								
27	表探			染付 壺				赤褐色	赤褐色	聖域	縦ナゲ	2							祭礼用	
28	表探			磁器 戸車				灰白	灰白	聖域	縦ナゲ	2								
29	表探	磁器 仏飯具				灰白	灰白	聖域	縦ナゲ	2										

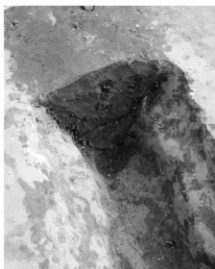
第2表 出土石器観察表

掲載 頁	図 番号	掲載 番号	出土 層位	器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
7	8	17	II	磨石	砂岩	14.0	10.2	6.5	1280	
		18	II	磨石	砂岩	14.5	5.4	3.8	400	
		19	II	磨石	砂岩	11.1	4.0	3.0	260	



- 一段目左：柱穴検出状況（北西から）
一段目右：柱穴半截状況（東から）
二段目左：掘立柱建物1半截状況（西から）
三段目左：土坑遺物出土状況（南から）
三段目右：土坑完掘状況（北から）
四段目左：溝状遺構2完掘状況（南西から）
四段目右：溝状遺構2土層断面（東から）





一段目 : 調査区西北部遺構検出状況 (南東から)
 二段目左: 溝状遺構 1 検出状況 (西から)
 二段目右: 溝状遺構 1 完掘状況 (西から)
 三段目左: 溝状遺構 1 半掘状況 (西から)



西田第3遺跡出土弥生土器写真



西田第3遺跡出土古墳時代土師器写真



西田第3遺跡出土土師器写真



西田第3遺跡出土近世陶磁器写真

報 告 書 抄 録

ふりがな	にしだだいさんいせき						
書名	西田第3遺跡						
副書名	宅地分譲に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書						
巻次							
シリーズ名	宮崎市文化財調査報告書						
シリーズ番号	第118集						
編集者名	金丸武司						
発行機関	宮崎市教育委員会						
所在地	〒880-2101 宮崎市大字跡江4200番地3						
発行年月日	2017年3月						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	遺跡番号	北緯	東経	調査原因	種別
にしだだい-いせき 西田第3遺跡	みやまけん 宮崎県 みやまし 宮崎市 ほんごうなんぽう 本郷南方 あしひら 字西田	45201	25-033	31° 51′ 09″ 付近	131° 25′ 52″ 付近	宅地分譲	散布地
	調査機関	調査面積	主な時代	主な遺構	主な遺物		
西田第3遺跡	H27.11.30 ～ H27.12.16	142 m ²	弥生時代 古墳時代 古代 中世 近世	掘立柱建物 土坑 溝状遺構	弥生土器 土師器 陶磁器（古代） 陶磁器（近世）		
<p>概要) 弥生時代から近世の複合遺跡。弥生時代と中世以降は遺物のみ。 古代に掘立柱遺物や溝状遺構などが作られた。</p>							

宮崎市文化財調査報告書第118集
宅地分譲に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
西田第3遺跡
2017年3月
発行 宮崎市教育委員会

